

男女共同参画に関する市民意識調査報告書

【概要版】

この概要版は、「男女共同参画に関する市民意識調査」の結果を取りまとめたものです。
市民の皆様の男女共同参画に関する意識の変化を把握し、今後、市が取り組むべき施策の参考資料とするために調査を実施しました。

1. 調査の概要

調査地域：宇土市全域

調査対象者：満 18 歳～75 歳までの市民 2,000 人（無作為抽出）

調査方法：郵送による配布・回収

調査期間：令和 4 年 10 月 28 日～12 月 9 日

有効回収数（率）：886 人（44.3%）

調査項目：①あなた自身や家族のことについて

②男女共同参画に関する意識について

③家庭生活について

④子育て・教育について

⑤女性の働き方や社会参画について

⑥ワーク・ライフ・バランスについて

⑦ドメスティック・バイオレンス等について

⑧男女共同参画の視点からの防災・復興について

⑨男女共同参画の推進について

2. 集計上の注意

①図表の「n」はアンケート調査のサンプルの数であり、回答率（%）の分母である。

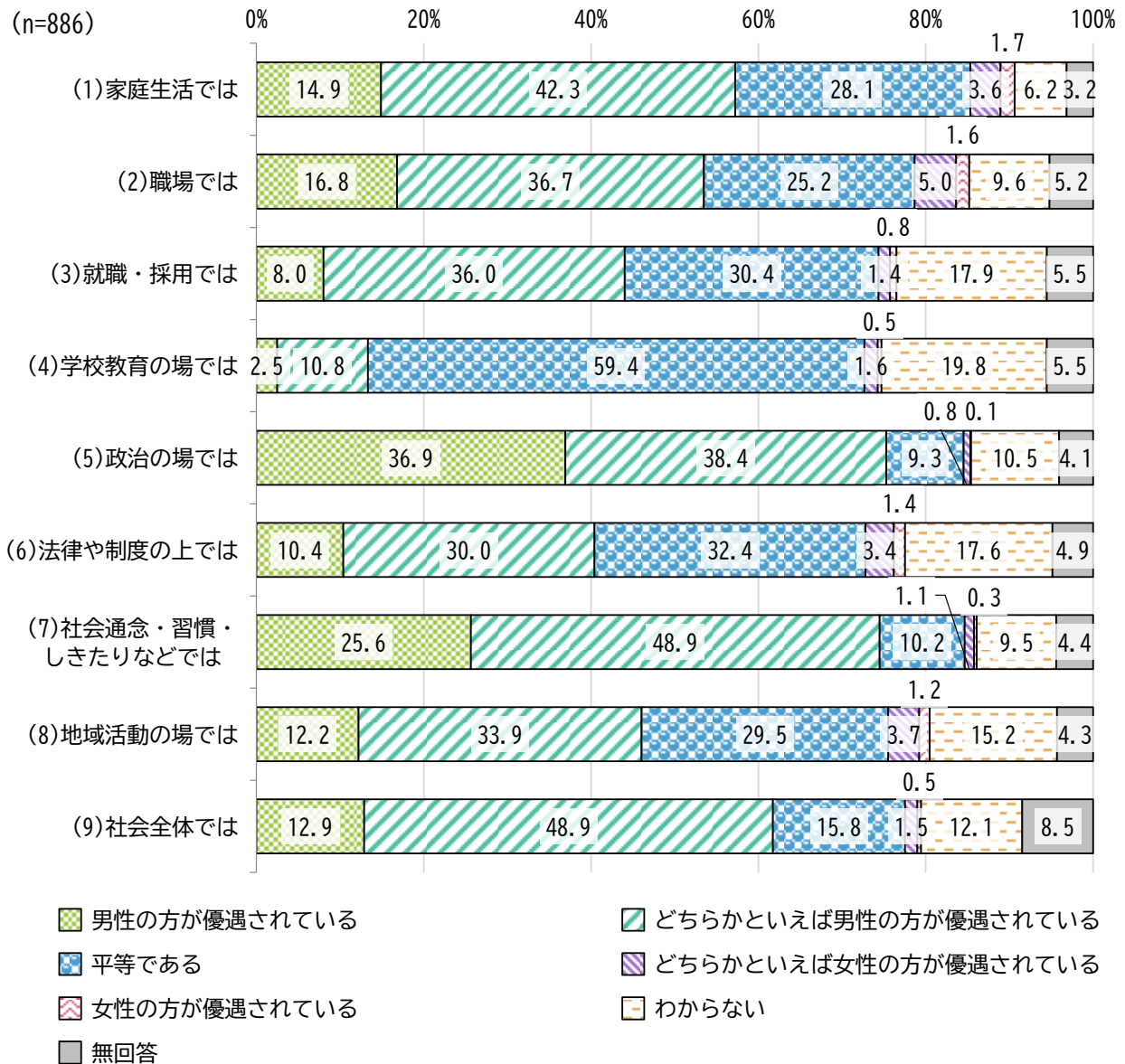
②回答率は百分比の少数第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

③2 つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として 100%を超える。

宇土市 企画部 まちづくり推進課 市民活動支援係
〒869-0492 宇土市浦田町 51 番地
TEL：0964-22-1111

★男女共同参画に関する意識について

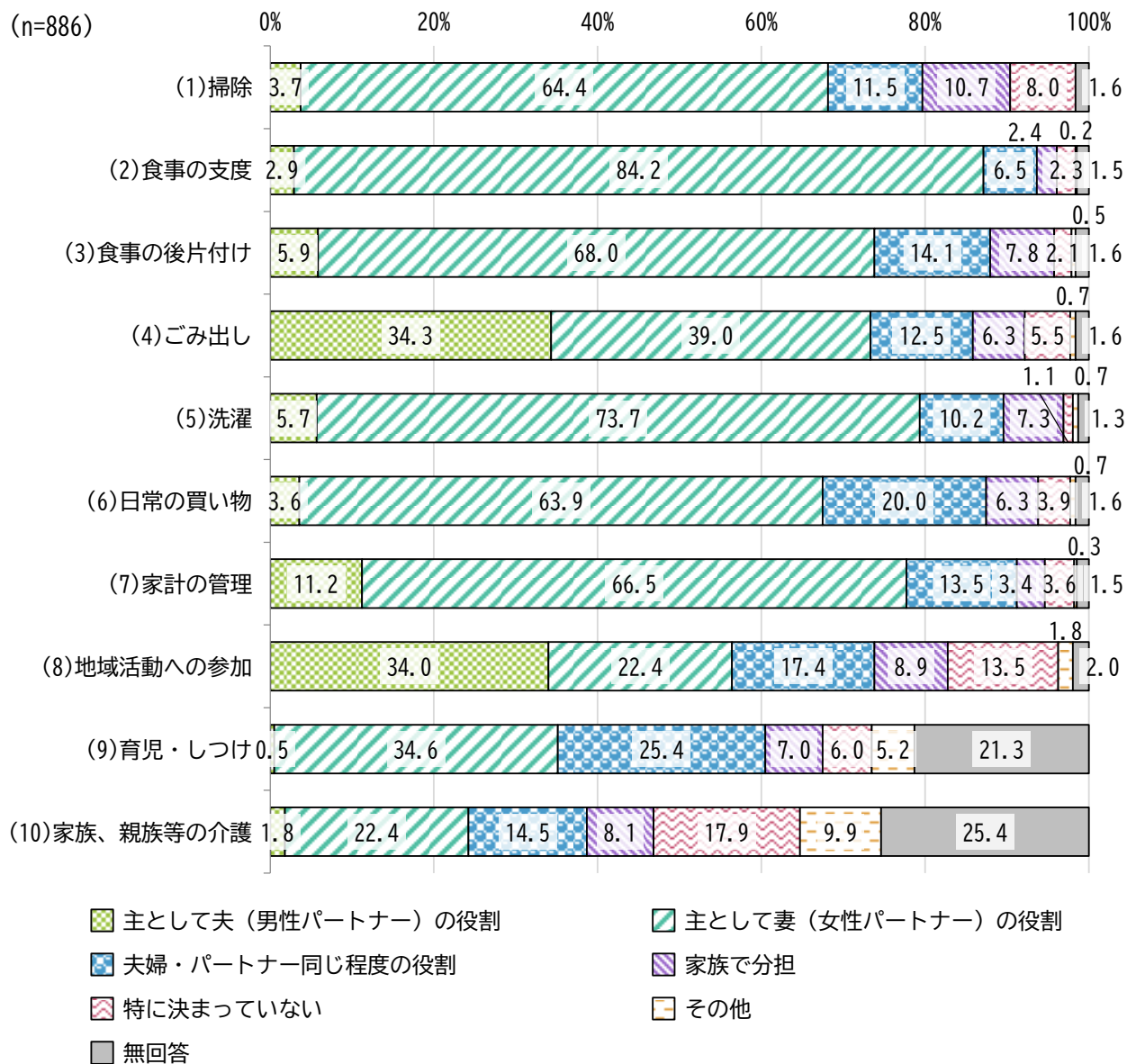
平等感が最も高いのは「学校教育の場」(59.4%)となっています。「学校教育の場」以外は、男性優遇感(「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)の割合が高くなっています。特に「男性優遇感」が高いのは、「政治の場」(75.3%)、「社会通念・習慣・しきたりなど」(74.5%)となっており、「男性優遇」といった認識が強くあることがうかがえます。



★家庭生活について

家事等の分担の現状については、「掃除」「食事の支度」「食事の後片付け」「洗濯」「日常の買い物」「家計の管理」の6つの項目で、「主として妻（女性パートナー）の役割」を選んだ人が6割を超える結果となっています。

「ごみ出し」「地域活動への参加」については、「主として夫（男性パートナー）の役割」の割合が3割を超えていますが、それ以外の項目は低くなっており、家庭での家事の分担が妻（女性パートナー）に偏っている傾向がうかがえます。

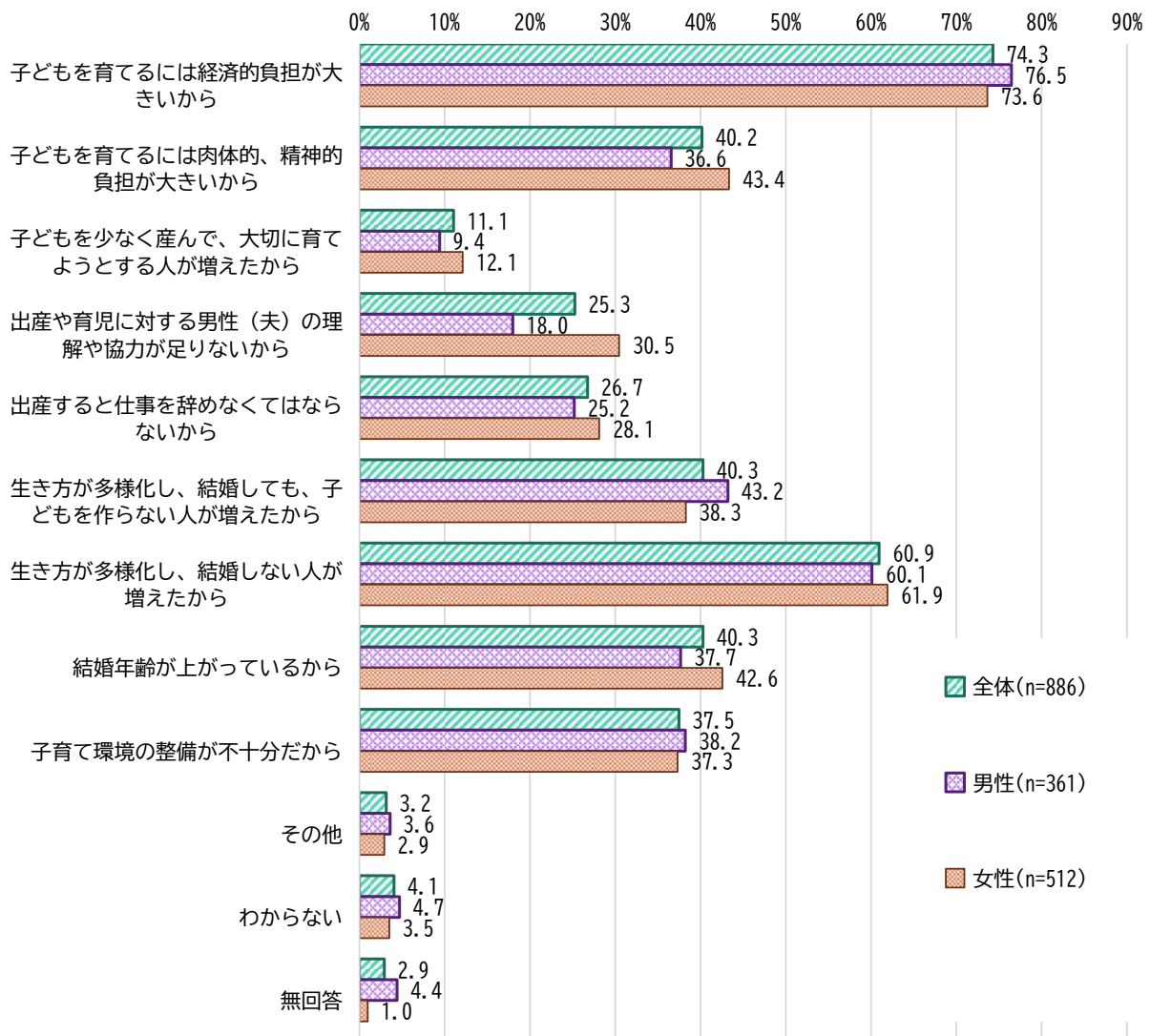


★子育て・教育について

①子どもの数が少なくなっている原因

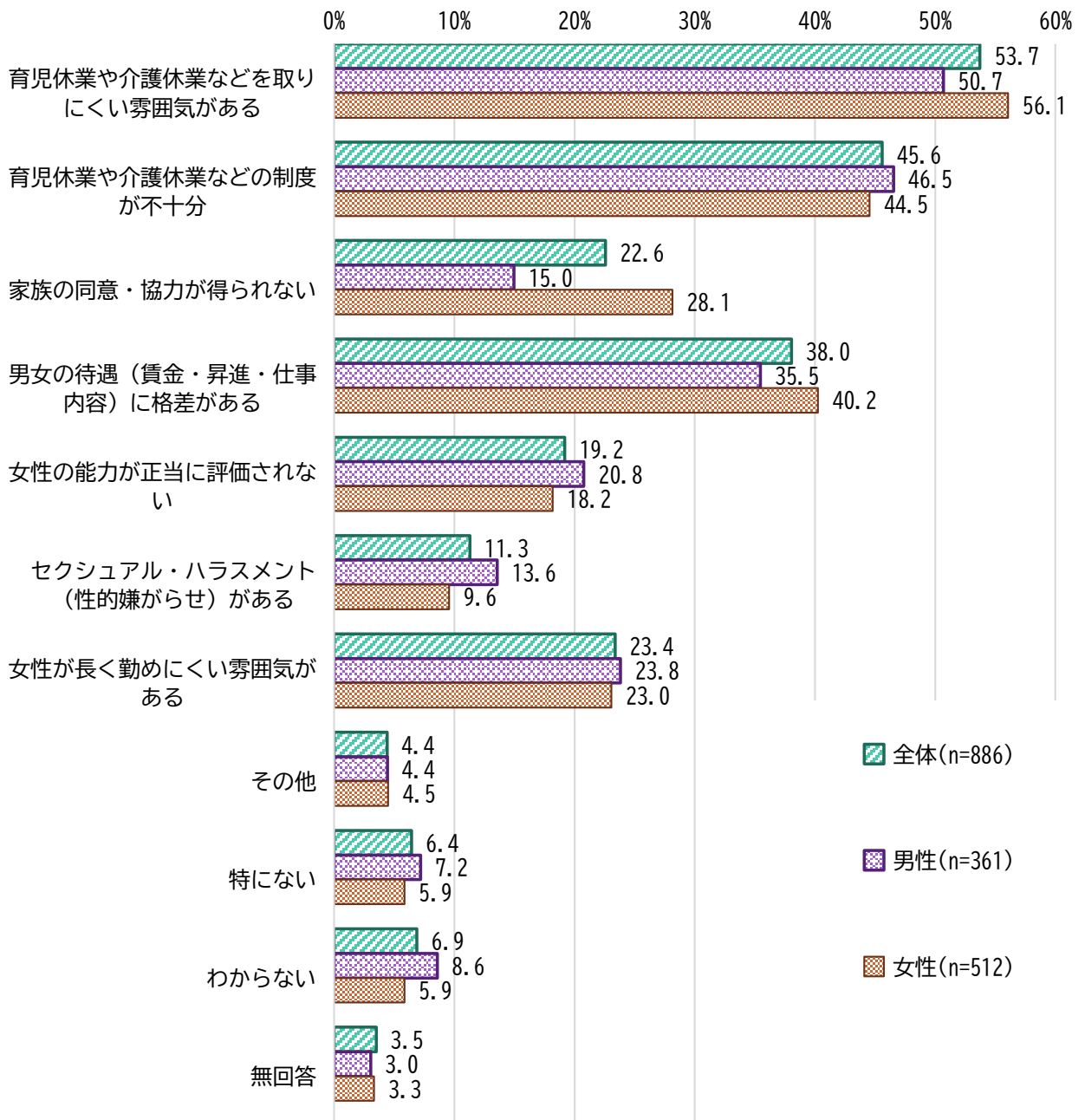
女性が産む子どもの数が少なくなっている原因について、全体では「子どもを育てるには経済的負担が大きいから」(74.3%)が最も高く、「子どもを育てるには肉体的、精神的負担が大きいから」「結婚年齢が上がっているから」も4割を超えており、子どもを育てることへの経済的・肉体的・精神的負担感により子どもを作らない人が多くいることがうかがえます。

また、「生き方が多様化し、結婚しても、子どもを作らない人が増えたから」「生き方が多様化し、結婚しない人が増えたから」の割合も高く、生き方の多様化により、子どもの数が少なくなっていることがうかがえます。



★女性の働き方や社会参画について

女性が職業を持ち続ける上での問題について、全体では「育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある」(53.7%)の割合が最も高く、次いで「育児休業や介護休業などの制度が不十分」(45.6%)、「男女の待遇(賃金・昇進・仕事内容)に格差がある」(38.0%)となっており、職場環境の改善や育児・介護休業などの制度の充実が求められていることがわかります。

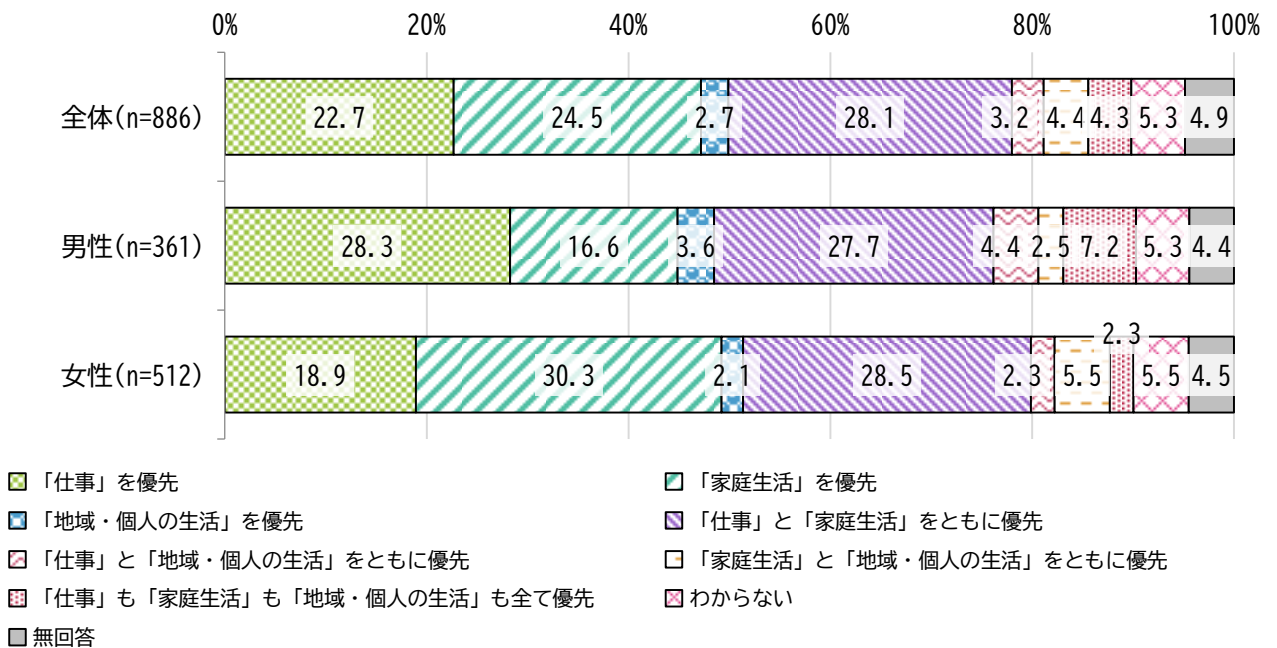


★ワーク・ライフ・バランスについて

①現状

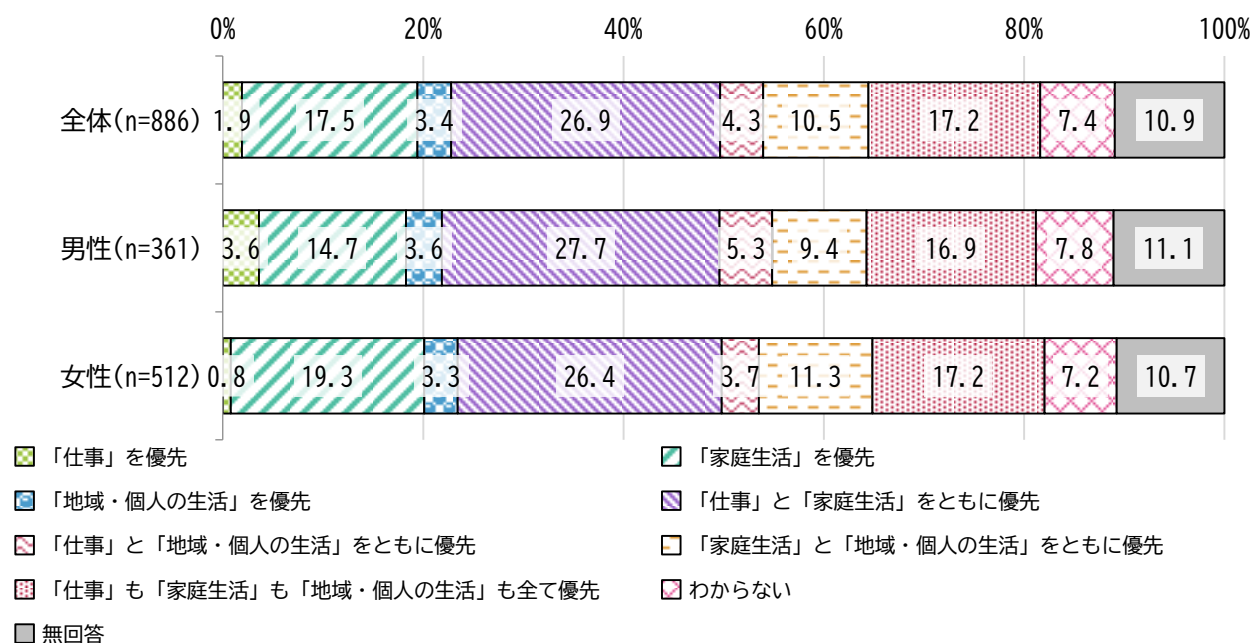
生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度で現状に最も近いものについて、全体では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(28.1%)の割合が最も高く、次いで「『家庭生活』を優先」(24.5%)、「『仕事』を優先」(22.7%)となっています。

男性では「『仕事』を優先」と回答した割合(28.3%)が最も高く、女性(18.9%)を9.4ポイント上回っており、女性では「『家庭生活』を優先」と回答した割合(30.3%)が最も高く、男性(16.6%)を13.7ポイント上回っています。



②希望

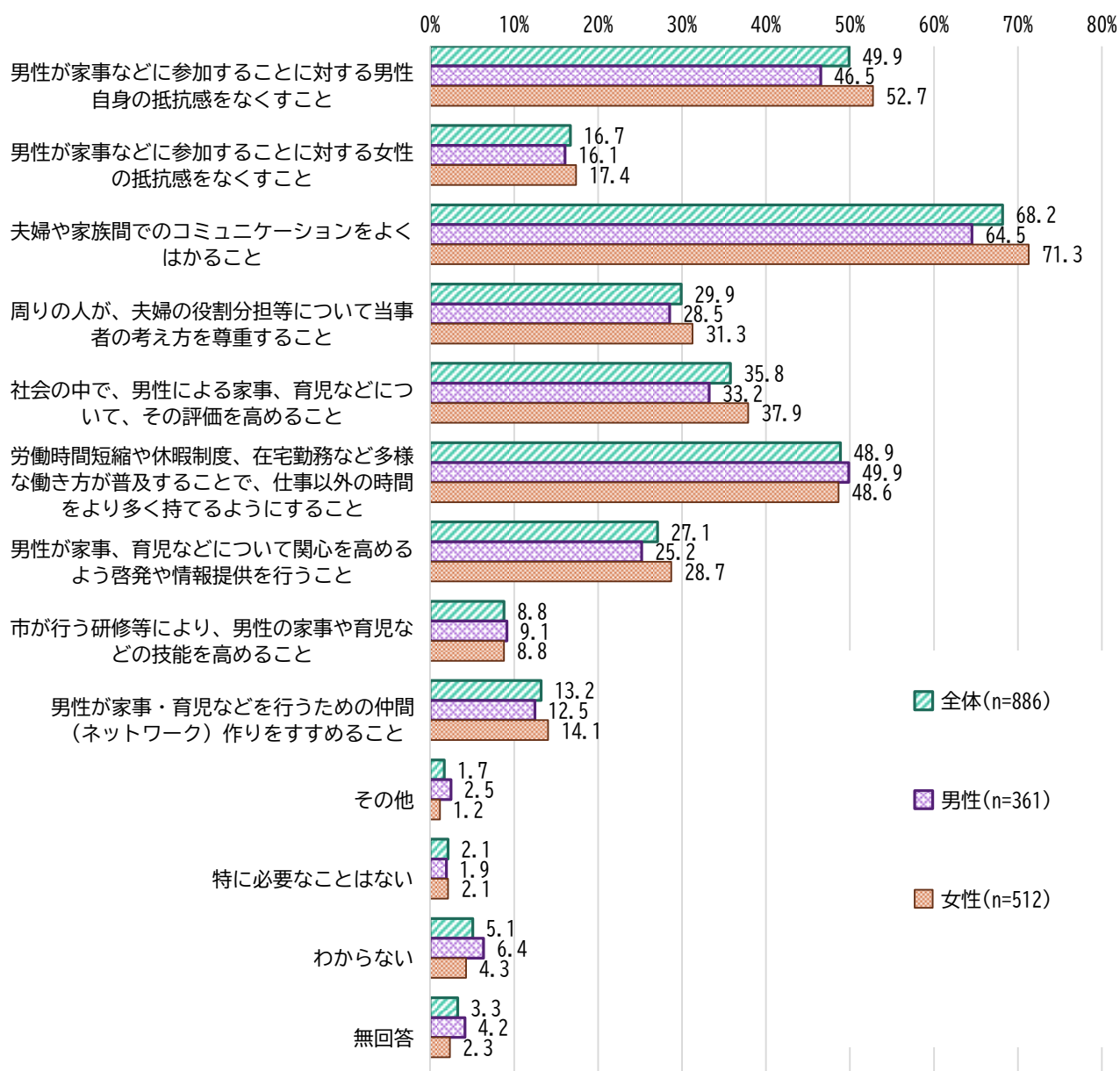
生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」優先度で希望に最も近いものについて、全体では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(26.9%)の割合が最も高く、次いで「『家庭生活』を優先」(17.5%)、「『仕事』も『家庭生活』も『地域・個人の生活』も全て優先」(17.2%)となっています。性別では回答傾向に大きな差はみられませんでした。



以上のことから、「希望」では男女ともに「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」の割合が最も高いものの、「現実」では男性は「『仕事』を優先」(28.3%)、女性は「『家庭生活』を優先」(30.3%)の割合が最も高くなっており、「希望」と「現実」の回答に差が生じていることがわかります。

③男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

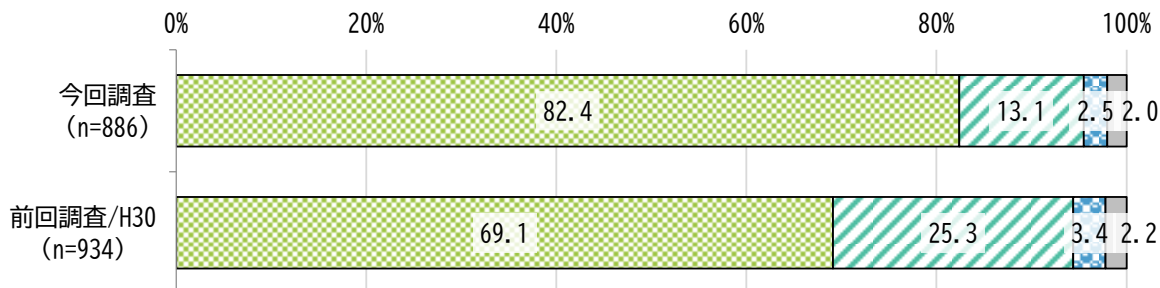
男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なことについて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(68.2%)の割合が最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(49.9%)、「労働時間短縮や休暇制度、在宅勤務など多様な働き方が普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(48.9%)となっています。



★ドメスティック・バイオレンス等について

①ドメスティック・バイオレンス (DV) の認知度

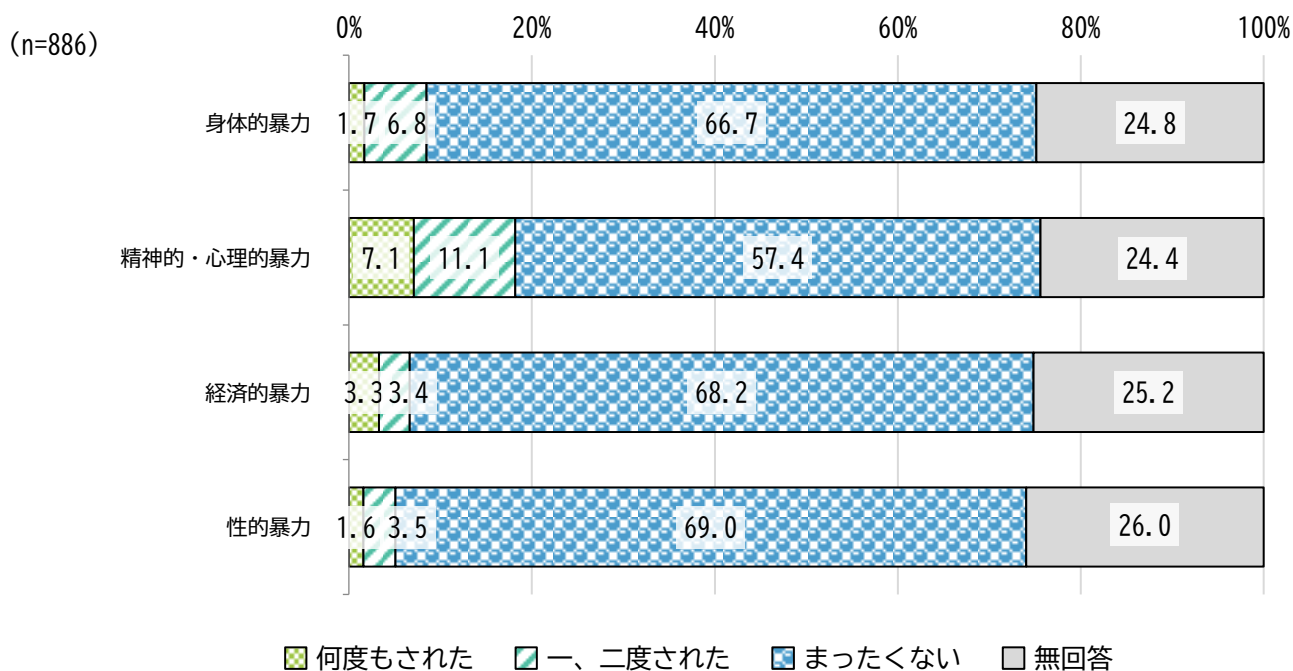
ドメスティック・バイオレンス (DV) の認知度については、「内容まで知っている」(82.4%)の割合が最も高く、前回調査 (69.1%) を 13.3 ポイント上回っており、認知度が高くなっていることがわかります。



■ 内容まで知っている ■ 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない ■ 知らない ■ 無回答

②配偶者、パートナーからドメスティック・バイオレンス (DV) を受けた経験の有無

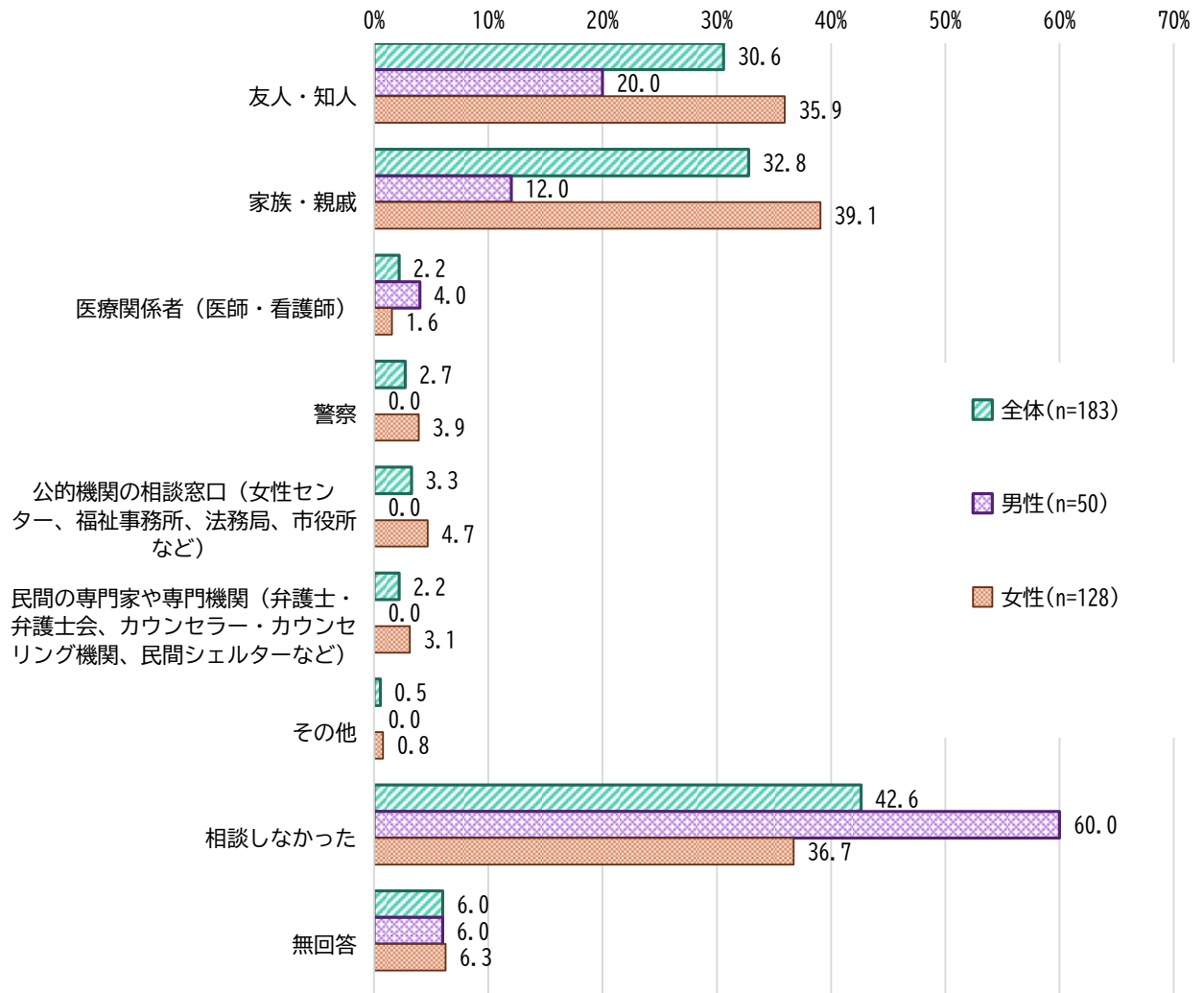
配偶者やパートナーから暴力を受けたことがあるかについて、「受けたことがある」(「何度もされた」+「一、二度された」)の回答がほとんどの項目で1割未満となっている中、「精神的・心理的暴力」では18.2%と2割近くとなっています。



■ 何度もされた ■ 一、二度された ■ まったくない ■ 無回答

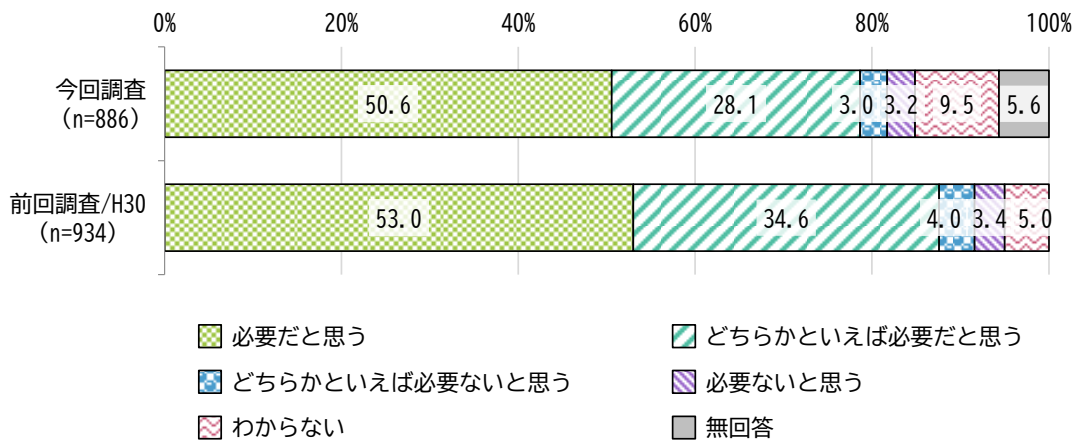
③ドメスティック・バイオレンス (DV) を受けた際の相談先

DV を受けた際の相談先について、女性は「家族・親戚」「友人・知人」に相談する割合が男性より高いものの、男性は「相談しなかった」割合が女性より高く、「家族・親戚」の割合が12.0%と女性（39.1%）より27.1ポイント低くなっています。

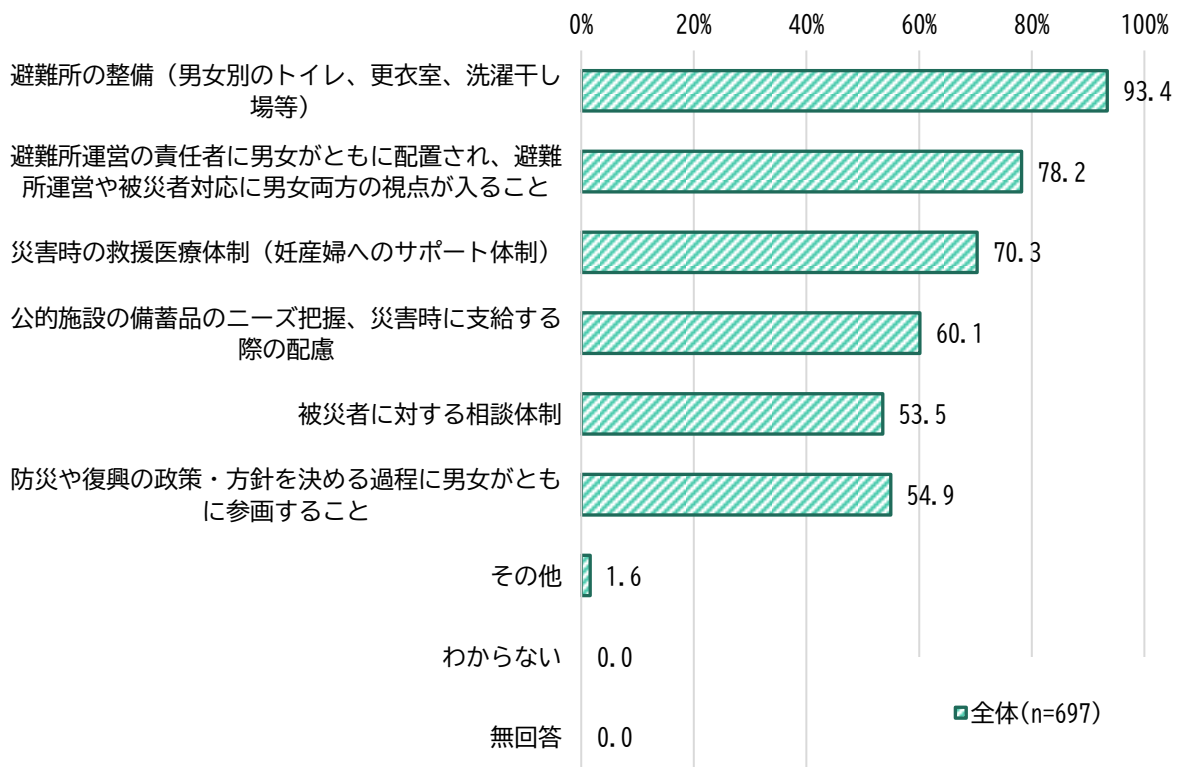


★男女共同参画の視点からの防災・復興について

防災・復興において、性別に配慮した取り組みが必要だと思うかについては、「必要だと思う」（「必要だと思う」＋「どちらかといえば必要だと思う」）の回答は78.7%となっています。



必要だと思う具体的な取り組みについては、「避難所の整備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等）」（93.4%）の割合が最も高く、次いで「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」（78.2%）、「災害時の救援医療体制（妊産婦へのサポート体制）」（70.3%）となっており、その他の取り組みでも5割を超えています。



★男女共同参画の推進について

宇土市に対して、男女共同参画社会づくりを進めていく上での要望については、「子育て支援サービスの充実」(53.7%)の割合が最も高く、次いで「介護支援サービスの充実」(52.4%)、「働きやすい就労環境の整備」(49.8%)、「子どもの頃からの男女共同参画教育の推進」(48.4%)となっています。

世代のニーズに合わせたサービスの充実、教育・就労環境の整備など、行政の総合的な施策の推進が求められています。

